

第1回千代田区エリアマネジメント推進ガイドライン検討会 議事要旨

| | |
|----|---|
| 日時 | 令和4年8月23日(火) 10時~12時 |
| 会場 | 区役所8階第1・第2委員会室 |
| 出席 | 11名(全員出席/内オンライン出席2名) |
| 議題 | 千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインについて (1) 千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインの目的について (2) 千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインの構成について (3) 千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインに掲載する各種制度について |

議事要旨

- 開会
- 委嘱状交付
- 委員自己紹介
- 委員長の選任

⇒委員長は中島委員とする。

資料説明(事務局より)

- (1) 千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインの目的について
- (2) 千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインの構成について

- 資料1に基づき、千代田区エリアマネジメント推進ガイドライン検討の背景・目的等が説明された。
- 資料2に基づき、千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインの構成(たたき台)が説明された。
- 資料3に基づき、他自治体等のエリアマネジメント活動の事例が説明された。

意見概要

- (1) 千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインの目的について
- (2) 千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインの構成について

- 様々なステークホルダーがいる中、千代田区という日本の中心地で、6万7千人の人口に対して85万に昼間人口がいるということにあっては、誰のまちだということを感じている。その中で資料1に、地域に住み・働き・学ぶ一人ひとりを実施主体としたいとあるのは、住民票の有無に関わらず千代田区に関わりがあり、千代田区を本当に考えている人を主体としているところが、通常のエリアマネジメントと決定的に違うと考える。他自治体のガイドライン等でも「みんな」という言葉や「人を戻す」といった言葉があるように、そこに住んでいる人たちだけじゃなく、千代田区に関わりのある人たちについて広く考えて進めなくてはいけないと感じた。
- 資料1について、区内にはエリアマネジメント組織が様々にあるが、今回のガイドラインの策定にあたって共通認識や連携についてどう考えているか。
- 活動の主体を多様に設定していることがポイントだと考える。それらを一つのガイドラインでどうやってまとめていくかということが大事であるが、現時点ではそこがうまく見えていない。本ガイドラインが「自分に関係ない」とならないようにまとめる必要がある。

- 千代田区の中に都市再生推進法人がいくつかあるが、立地上大企業が関わっているところが多いと思う。ただ、地域の活動を都市再生推進法人までもっていくにはハードルが高い。大阪市や仙台市では、都市再生推進法人準備団体認定制度などといった制度で、都市再生推進法人になる前の段階の団体を認定している。千代田区もエリアマネジメント団体やその活動を増やしていくのであれば、そういうステップを考えてもよいと感じた。
- これまで、個人の活動はないがしろにされてきていたと感じる。道路空間を使う場合も町会や商店街といった団体じゃないと使えない実情がある。そうではなく、公共空間を活用する場合に求められる公共性や地域性をどういうふうに審査・チェックしていくのかを考えていく必要があると感じた。海外では、パフォーマーにライセンスを与えて活動を認めるような事例がある。また、オープンカフェやパークレットといった活動内容が明確なものについては、近隣の合意を経て基準を満たしていれば、簡易的にチェックできるような仕組みもある。一方、国内ではイベント等一つ一つ内容等が異なるものは、都度協議が必要な部分があると思う。いずれも誰がどうチェックするのかということクリアにできると、様々な活動にチャレンジすることを容認していくようなスタイルが作りあげられると考える。
- 資料3の事例は、これから活動する方の参考になると思うが、「個人」のカテゴリーで紹介している2件は、公園や河川のスペースを団体として管理しているところに、まちづくり活動としてキッチンカーを呼んでいるものだと思う。これを個人の活動として紹介すると、個人に期待していることが分かりづらくなると考える。個人に頑張ってもらいたいとするのか、個人にはグループになってもらいたいとするのか、両方あると思うが、それが分かりやすく伝えられるとよい。
- キッチンカーについては個人事業主になると考える。個人と個人事業主、どこまで対象にするかという判断もあると考える。
- 本ガイドラインが対象とする活動の幅が広い中、この場で議論するのはまちを使いこなすことなのか、地区計画のように地域の将来像を考えることなのかといったことを議論するのかを整理し、ガイドラインの第1章でも明確にしたほうが良い。
- 活動を運営するマネジメントの主体に関することで、町会・商店会の空洞化が指摘されている。従来まちづくりをしてきた団体がそのような状況にある一方、まちの活動に参加する人は多様化してきており、町会や商店街への支援メニューをエリアマネジメントという形に融合させてもよいと考える。また、多様な活動については総括していく必要があると考える。
- プライベートな活動とパブリックな活動の間をつなぐハブのような空間を認めて、受け止めていく主体として、エリアマネジメント団体の意義があると考えている。また、活動を継続させるための仕組みも重要だと考える。財源と地域で使いたいものがミスマッチになっているところもあるので、地域の優先順位に基づき調整していけるような制度運営が必要だと考えている。
- 神保町地区に関して言うと神保町活性化委員会というのがあり、8月15日にイベントを行ったが、お盆中にも関わらず盛況であった。当町会は小さく財力そんなにないため、活動に対する支援はありがたく感じている。組織が小さいことにもメリットはあって、意見が割れずスムーズに進められるということがある。また、運営にあたっては「遊ぶ」ことがよいと考えている。大変だけど計画する方も楽しくないと、来ていただく方も楽しめない。
- 住民の意見と関係なくバラバラに開発等が進むのは残念である。まちづくりにおいて、全体をみることも大事だが、住んでいる人の発言力がないように感じている。ウォークアブルなまちづくりには賛成だが、住み続けられるまちにするためにも、活動に対して住民の意見をどうやって出せばよい

かが分からないため、今回の検討会の中で勉強し、ご意見を伝えたい。

- ウォークアブルなまちづくりを何のためにやるのかということだが、まちを通じて社会に参画する経路を増やしていく取組みとなる。その中で顔をあわせ、関係をつくっていくことが、自分たちの環境をよくしていくことにつながってくると考える。住み続けられるということは大きなテーマで、まちに関わる人たちの背中を押しつつ、行政側の支援を分かりやすく届けていくことがこの会の狙いだと思う。
- まちで活動したいときに困るのは、活動に対して必然性・必要性が求められることである。個人が主体となって活動することは魅力的で可能性があるが、地域との合意形成を誰が図るのかといったことも難しい。そのためにエリアマネジメント団体が必要だと感じている。
- エリアマネジメント活動が支援に値するかどうかの必要性の議論について、基準を設けるかどうかということも含めて重要だと考える。
- 委員からもお話があったように、やっている私たちが楽しいというのも重要で、やりたいと思う人がやれる状況をサポートし、それを価値のあるところにつなげる回路をどうつくるのかということが肝だと考えている。
- チャレンジする側からすると手軽に素早くできないとモチベーションが落ちてしまう。オーストラリアのメルボルンではストリートパーフォーマーが活動してよい場所や、チャレンジしてよい場所がWEB上で視覚化されている。千代田区の場合地域と一緒にやらないといけな場所が多いので、地域等と対話して一緒にやっていく場所が明確になると活動がしやすくなると思う。
- 活動の良し悪しだけでなく、できる・できないという場所の話セットで考える必要がある。その都度全部協議しなければならないのではなく、ここならできるということを示すことで、そこに活動が乗っかってくる動きもあると考える。活動に着目する形で議論することは大事だが、それがどこでできるかの環境のセッティングについても議論できるとよい。キッチンカーの取組みも、ここならできるという場所があれば、個人や個人事業主が乗ってくる。場所づくりから始めなければならないとすると、団体である必要性や支援の必要性から話が始まり、プロジェクト的になってしまう。
- 自分がやってきた活動を振り返ると、当初町会から猛反対されていたものが、社会実験を経て、開発が行われ、よい結果となった。それぞれにまちへの思い入れがある中、折り合いをつけて次の世代にまちを託していけるよう、話し合いを続けていくということが重要である。また、活動後すぐ結果を求めるのではなく、今の活動が数年後に花開くように、その都度話し合いを続けていくことが重要である。
- 資料1の2ページにのっているエリアマネジメント組織は、様々に課題はありながらも活動をしているが、一方で個人や町会の活動も応援していきたいと考えている。そのため、それらの活動をどう展開できるかが重要だと考えている。千代田区内の町会・商店街による活動はどういったものがあるかを整理できると、「ここでできるなら自分たちも」といったことや、活動への助言等も出せるようになると思うので調査していただきたい。
- 町会の意見と住人の意見が異なる場合もある。地域のまちづくりが、住人が知らないまま進むことがないよう、誰の利益でということではなく、まちとしてどうしていきたいかを中立的に話し合いができる場が必要である。
- 地域の活動の見える化はやっていただきたい。神田祭の道路空間の使い方等、千代田区の町会や地元のノウハウは高いレベルにあると思う。地元の人を使いこなしがうまい地域が多くあるので、そ

ういったノウハウを個人やエリアマネジメント団体につなげられるとよいと考える。

- すでにある事例や、官民で話し合う機会やテーブル・仕組みといったものを共通理解として示せると、今後の進め方の手掛かりになる。そういった情報を整理し、議論できるとよい。

資料説明（事務局より）

（3）千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインに掲載する各種制度について

- 資料4に基づき、千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインに掲載する各種制度の一覧と、その記載内容のたたき台が説明された。

意見概要

（3）千代田区エリアマネジメント推進ガイドラインに掲載する各種制度について

- 東京都のヘブンアーティスト事業を追加したほうがよい。
- 印象として1番と3番は必要だが、割とそれ以外は行政が使うものも入っているしエリアマネジメント団体や都市再生推進法人でないと使えないものがあるので、誰が使うのかということに分けられると明快だと感じた。
- ここでリスト化しているのは現行の制度である。都市再生推進法人になる手前にある団体等を認証し、どう支援メニューをつくっていくかの検討に向けた議論が必要である。
- 第4章のところで制度等をまとめるとのことだが、資料編にまとめるようなやり方もあると考える。
- 誰が使うかによって使える方法が異なることもある。例えば道路使用許可だと、非公式団体だと、構成員のそれぞれで許可・手数料が必要となるが、区市町村に認められた団体だと一括で使用許可がもらえるという場合もある。そのようなテクニク的な部分も、それぞれの章とつながって記載できる部分があると思うので、分かりやすく示してもらえるとよい。
- 道路使用許可がおりないケースが多くあると思うが、その部分は心配なくてよいのか。
- 国のウォークابل施策に関する議論がオーソライズされる中で、警察庁も話しているということなので、ウォークابلに対する大きな方向感をご理解いただいていると思う。それが現場周辺におりた時に、緊急車両の状況や交通量等の中で難しい部分もあると思う。区等も説明しながら合意形成がしやすい、警察とも共感しやすいような仕組みを、ウォークابلなりエリアマネジメントなりを議論する中で積み上げられればと考えている。
- これまで各地域が個別に道路使用許可を取りに行き協議していたものが、公共空間を使いこなしていくという面では、千代田区であれば景観・都市計画課でサポートしていくような形へ徐々になってきていると思うので、現場で起きていることとそれをサポートできるかというところについて、両輪を見ながら議論を進めていければと考えている。
- 千代田区で活動する中で、実感として思うのは交通量に対して幅員が広い部分があったり、土日は交通量がないところがあったりすることである。曜日時間単位でも交通量の差が激しいと感じる。今後、ウォークابلまちづくりデザインに基づき、地域ごとにウォークابلの計画が必要になるだろうが、その時に、道路の使いやすさ等の住み分けが整理されていると、活動のしやすさにつながると考える。

その他

- 資料5に基づき、検討のスケジュールが説明された。

閉会